

第一部 なぜ、今、戦後史を再考するのか

第一章 戦後史再考 西川長夫 26

第二章 〈国民の歴史の越え方〉 加藤千香子 53

【コラム1】 私にとっての戦後史 79

第二部 戦後がたちあがっていくなかで

第三章 引揚者たちのわりきれない歴史——植民地主義の複雑さに向きあう 杉浦清文 84

第四章 「占領」とは何か 西川祐子 100

第五章 占領と民主主義——民主主義の矛盾と「私論」の可能性 沈照燦 115

第六章 戦後文学の「夜の声」——朝鮮戦争と戦後日本の誕生 原佑介 130

第七章 戦後のアンビバレンス——五五体制と日本国憲法の問題 内藤由直 145

【コラム2】 外国人労働者、農村、人的資源 崔博憲 161

【コラム3】 「当然の法理」について 崔勝久 163

第三部 せめぎあう／ゆらぐ戦後

第八章 ベトナム戦争体験とは何であったか——「対岸の火事」から見える日本 岩間優希 166

第九章 映画『家族』から見た高度経済成長 番匠健一 182

第二〇章 一九七二年、沖縄返還——終わらなかった「戦後」 大野光明 200

【コラム4】 戦後レジームとしての安保 内藤由直 219

第四部 戦後の「終わり」を生きる

第二一章 日立就職差別闘争後の歩み 朴鐘碩 222

おわりに

執筆者プロフィール 325

索引 323

戦後史再考年表 315

ブックリスト 299

大野光明・番匠健一 293

第二章 「煩悶」の日本語教育——戦後台湾における日本語教育を視座として 238
 倉本知明

第三章 原宥体制と多文化共生について 254
 崔勝久

第四章 戦後史の外縁——誰が次の時代をつくるのか 272
 崔博憲

コラム5 歴史学は生命再生産をどのように語るのか 289
 西川祐子

コラム6 冷戦の終焉 291
 大野光明